

台湾における食の安全性への関心の高まりと 県内企業の取り組みについて

公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所（研修生） 金子 翔平

1. 日本産農林水産物・食品輸出状況と食の安全性への関心の高まり

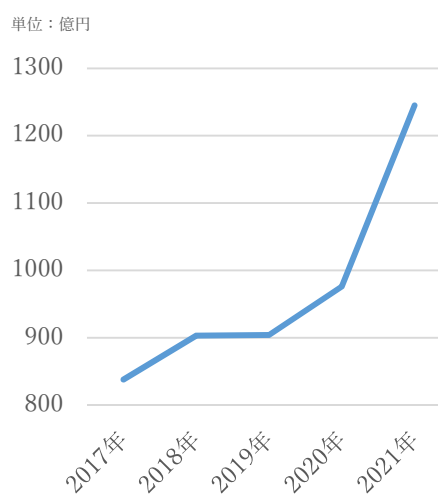
台湾への日本産農林水産物・食品の輸出額は、直近5年間で約1.5倍となっており、2021年は1,245億円となっている（表1）。これは、国・地域別で4位¹となっており、台湾は日本にとって重要な日本産農林水産物・食品の輸出市場となっている。

一方で、2011年の東日本大震災による原発事故以降、福島県、茨城県、栃木県、群馬県及び千葉県の商品は台湾側の輸入規制措置によって輸入が停止され、日本にとって解決すべき大きな課題であった。2022年2月、台湾当局は日本産食品への輸入規制措置の緩和を発表し、五県

産の商品について、きのこ類や野生鳥獣肉などを除き、放射性物質検査報告書及び産地証明書の添付を条件に輸入解禁となった。規制緩和を機に、マーケットインの発想を基に、台湾における農林水産物・食品の輸出促進にも積極的に取り組んでいくことが農林水産省から発表されている²。

近年、台湾では食の安全性に関する消費者の関心が高まりを見せている。

台湾における食品安全衛生管理の規制制定の指針を定めている食品安全衛生管理法³は、1975年に公布され、これまで47年の間に19回改正されている。そのうちの11回の改正は直近10年（2012年～2021年）の間に行われている。また、2018年に有機農業振興法が公布される等、有機農業が推進され、専門店のほか多くの小売店でも有機食品が売られており、台湾における健康志向や食の安全



（表1）台湾への農林水産物・食品 輸出額推移
（出典）農林水産省「農林水産物・食品の輸出実績（国・地域別）」を基に筆者作成

¹ https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e_info/attach/pdf/zisseki-3.pdf

² https://www.maff.go.jp/j/press/yusyutu_kokusai/chiiki/220208.html

³ <https://law.moj.gov.tw/LawClass/LawAll.aspx?pcode=L0040001>

性への関心の高まりが感じられる。今後も台湾への日本産農林水産物・食品の輸出は増加していくことが予想されるが、本県産農林水産物の差別化を図るためには安全・安心な農林水産物であることを担保することが重要になるだろう。

2. 県内企業による取り組み

食の安全性という消費者需要への対応として、供給側は生産者から消費者の元に届くまでの食品の移動を把握できるトレーサビリティシステムの活用も有効であり、県内企業で同システム活用に取り組んでいる事例を紹介したい。

(1) ブロックチェーン技術を活用したトレーサビリティシステムについて

株式会社 chaintope（福岡県飯塚市）はブロックチェーン技術を活用したトレーサビリティシステムの開発・展開を行っている。ブロックチェーンは「取引履歴」を各工程全体で共有する技術であり、「書き込まれた情報は改ざんできない」という特性がある。そのため、ブロックチェーン技術をトレーサビリティシステムに活用することで、その機密性と安全性により、更に高いレベルで消費者に食の安全性を保証することができる。

(2) 台湾での実証実験について

今年1月には、株式会社 chaintope と九州農産物通商株式会社（福岡県）が、ブロックチェーン技術を活用し、福岡県のブランドいちご「あまおう」の台湾向け輸出トレーサビリティの実証⁴を行い成功した⁵（写真1）。

本実証においては、台湾の店舗「SOGO 台北忠孝店」を訪れた顧客に、「あまおう」のパッケージに貼り付けた QR コードを通じて産地情報を確認してもらうとともに、トレーサビリティに関するアンケートを依頼した。56名がアンケートに回答し、9割以上の方がトレーサビリティに価値を感じているという結果となった。



（写真1）実証実験の様子（筆者撮影）

本格導入への課題は、技術面ではなく、川上から川下までの各関係者にかにして取組みに参加してもらうかだ。本格導入にあたっては通常より作業が増えることもあり、関係者全てに対し、取組みの価値について理解を得る必要がある。本県の農林水産物の差別化を図るためには認知度向上に加え、食の安全性を PR する取組みも有効であると考えられるため、これからの展開に注目していきたい。

⁴ 福岡県は、先進情報技術であるブロックチェーン技術を活用した、新分野展開やビジネス拡大を目指す県内企業のソフトウェア開発や実証実験に対し補助金を交付する事業を実施しており、当該実証実験が採択されている。

⁵ <https://prt-times.jp/main/html/rd/p/000000035.000030542.html>